

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：老人福祉費

事業名 苦情処理体制整備助成事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部高齢福祉課事業者指導係 電話番号：058-272-1111(内3470)

E-mail：c11215@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,745 千円 (前年度予算額： 6,745 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,745	0	0	0	0	0	0	0	6,745
要求額	6,745	0	0	0	0	0	0	0	6,745
決定額	6,745	0	0	0	0	0	0	0	6,745

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県国民健康保険団体連合会(以下、「国保連」という。)は、介護保険法第176条第1項第3号に基づき、介護サービス事業者等(以下、「事業者」という。)に係る苦情処理体制を整備している。

国保連が行う、事業者に係る利用者等からの苦情対応、指導・助言体制の整備について助成を行うことにより、迅速・的確に苦情に対応し、公平・中立な立場から苦情処理を行えるようにし介護サービスの質の確保及び質の向上を図ることを目的とする。

(2) 事業内容

【介護サービス苦情相談窓口の開設(通年)】

介護保険法に基づき、利用者からの介護サービスにかかる苦情相談・苦情申立案件を受け付ける苦情相談窓口を設置する。

【苦情対応専門委員会の設置(月4回)】

国保連に寄せられた苦情相談・苦情申立案件について検討し、改善が必要と思われる場合は、事業者に対して、介護サービス改善に関する指導及び助言を行う。

【苦情等対応業務連絡会の開催(年2回)】

苦情相談への対応を的確かつ迅速に行うため、関係機関で組織する連絡会を設置し、意見交換、情報収集等を行う。

【苦情対応研修会の開催】

県下36保険者の苦情相談対応職員を対象とした研修会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

苦情処理業務は、介護保険制度が施行された平成12年度の創設当初から国庫補助事業として実施されていたが、都道府県の事務として同化・定着したため、平成15年度からは一般財源化（地方交付税措置）され、所要の財源が措置されている。

- ・補助率：定額

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,745	苦情処理体制の整備等に関する補助
合計	6,745	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

岐阜県内の指定介護サービスに関する相談・苦情に対する窓口の開設に要する経費であり県の負担は妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	苦情処理体制整備助成事業補助金
補助事業者（団体）	岐阜県国民健康保険団体連合会（国保連） （理由） 国保連は、中立的な第三者機関として介護保険法上の苦情処理機関に位置づけられているため。
補助事業の概要	（目的）国保連が実施する苦情処理業務への財政支援 （内容）指定介護サービス事業所に関する相談・苦情に対する相談窓口の開設、指導・助言業務等に要する経費の補助
補助率・補助単価等	定額 （内容） 知事が必要と認めた額 （理由）
補助効果	介護保険サービスの質の確保
終期の設定	令和8年度（第9期岐阜県高齢者安心計画の終期）

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>介護保険サービスの利用者からの相談・苦情に対し、迅速・的確に対応することで指定事業者等が提供するサービスの質の維持・向上を図る。 なお、定性的な効果を目的とする事業であり、定量的な指標の設定は困難であるため、指標は設定しない。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	6,745	6,745	6,745

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	令和4年度は120件の苦情相談に対応した。また、市町村や地域包括支援センター職員や介護事業者向けに苦情対応研修会を実施するとともに、関係機関の業務に資するよう介護サービスに係るクリアファイルを作成した。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	令和5年度は111件の苦情相談に対応した。また、市町村や地域包括支援センター職員や介護事業者向けに苦情対応研修会を実施するとともに、関係機関の業務に資するよう介護サービスに係る苦情・相談事例集を作成した。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	令和6年度は108件の苦情相談に対応した。また、市町村や地域包括支援センター職員や介護事業者向けに苦情対応研修会を実施するとともに、関係機関の業務に資するよう介護サービスに係るリーフレットを作成した。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	国保連が実施する苦情処理業務は、介護保険法第176条に基づくものであり、岐阜県内の介護サービス利用者にとっての相談機関として無くてはならない。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	利用者からの苦情相談案件に対し、適切に対応している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	令和6年度は国保連合会介護保険苦情相談窓口の周知を図ることを目的として、苦情対応にかかる啓発リーフレットを作成し、保険者等関係機関に配布した。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後も介護サービス利用者が増加し、認知症高齢者も増加していく中、苦情相談の増加・複雑化が想定されるため、より充実した体制が必要となる。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の介護サービス利用者の苦情相談対応機関として不可欠であり、今後も補助を継続する必要がある。
